

第64回病診連携委員会要録

日時 平成27年5月25日(月) 午後7時45分
場所 浪速区医師会 会議室
出席者 浪速区医師会 : 7名
南 医師会 : 1名
愛染橋病院 : 2名
大手前病院 : 1名
四天王寺病院 : 2名
千本病院 : 2名
富永病院 : 2名
内藤病院 : 2名
なにわ生野病院 : 1名
日生病院 : 2名
浪速区役所 : 1名
地域包括支援センター : 1名
居宅介護支援事業者連絡会 : 1名
浪速区医師会事務局 : 1名

今回は、浪速区役所をゲストにお呼びし、千本病院、日生病院より新たな参加があった。

議 題

1. 第63回病診連携委員会報告について

2. ブルーカード事例検討等報告について(富永病院)

昨年10月より一次登録を開始してから以後、のべ件数11件の登録があり、使用も11件あった。内訳として循環器科に3件、脳外科に1件となっている。特に事例報告という形では問題なく進んでいるとのこと。

3. テーマに沿った意見交換

今回からアンケートに対する返答する形式ではなく、持ち回りでテーマを考えていただき、それについて意見交換する事となった。

今回は、富永病院より『1患者について、疾患ごとに別の病院への複数登録は可能か?』というテーマを提供していただいた。

愛染橋病院としては、既往歴があれば脳外科や循環器でも登録出来たほうが望ましいとのこと。久保田先生からの返答では、在宅療養後方支援病院として登録する場合は、その制度をブルーカードで利用するならば、1か所のみ登録はやむを得ないとする。高知市医師会では、第二候補までの病院を登録ができるようにしており、その他の藤井寺医師会でのブルーカードも二次登録ありにしていたはずである。当医師会の現状としては、循環器、脳疾患は一次登録以外に二次登録もありにしていたと思うが、複数登録の場合には優先順位などの議論が必要になってくる。

患者の希望も聞く必要があり、結果として開業医にまかせていただく方が良いのではとのこと。

例えば脳疾患、循環器疾患は富永病院に登録をして、それ以外は愛染橋病院にするといったような並列的な登録が当医師会でのブルーカードの使用状況である。

4. 地域包括ケアにおける区としての取組について(浪速区役所)

大阪市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画を中心にご説明いただいた。

現在は平成27年から29年度にかけての第6期の計画を進行中であり、最終的には平成37年までの間、約3年ごとに計画が見直されている。(重点的な取り組み等詳細

については別紙参照)項目として、①高齢者の地域包括ケアの推進体制の構築、②認知症の方への支援と高齢者の権利擁護施策への推進、③介護予防の充実、市民による自主的活動への支援、④地域包括ケアに向けたサービスの充実などが挙げられる。

浪速区としても在宅医療・介護連携の推進について、多職種が円滑に連携できることを目標とした会合を開催したところである。しかしいずれも手探りの状態とのこと。問題点として、医師会での在宅拠点事業や在宅医療コーディネーターなどの多職種連携が縦割りの状態で横のつながりがないため、それぞれが同様の内容に陥りがちである。また明確なビジョンがないためゴールポイントが定まらない等が挙げられる。

5. iProjectへの参加協力について

病院での参加、使用を推進していただきたく、参加可能な施設についてはVPN設定も含め浪速区医師会まで問いあわせていただきたいとのこと。(別紙あり)

6. 本会の在宅医療連携の現状について

平成30年までに在宅医を増やすということ、可能ならば強化型が望ましいということが大阪府の根底にあり、それに見合ったビジョンで進行している。

当医師会も昨年度よりコーディネーター事業に参加している。

7. その他

(1) 各病院からのお知らせ

① 愛染橋病院から6月27日16:00にスイスホテルにて登録医総会および病診連携の会を開催予定。

② 日生病院より5月30日開催のニッセイ市民健康セミナー開催のお知らせ。

(2) ブルーカードの動向

ブルーカードの登録件数(合計607件、浪速区内の医師より560件、他地区の医師から47件、使用状況(のべ件数 浪速区962件、5月1日からのカード動向59件(入院2件、死亡1件)

次回会議予定 平成27年6月29日(月)午後7時45分～